

もっと伝えよう がん登録 —食道がん—

広島市立広島市民病院 医療情報室

梅本 礼子

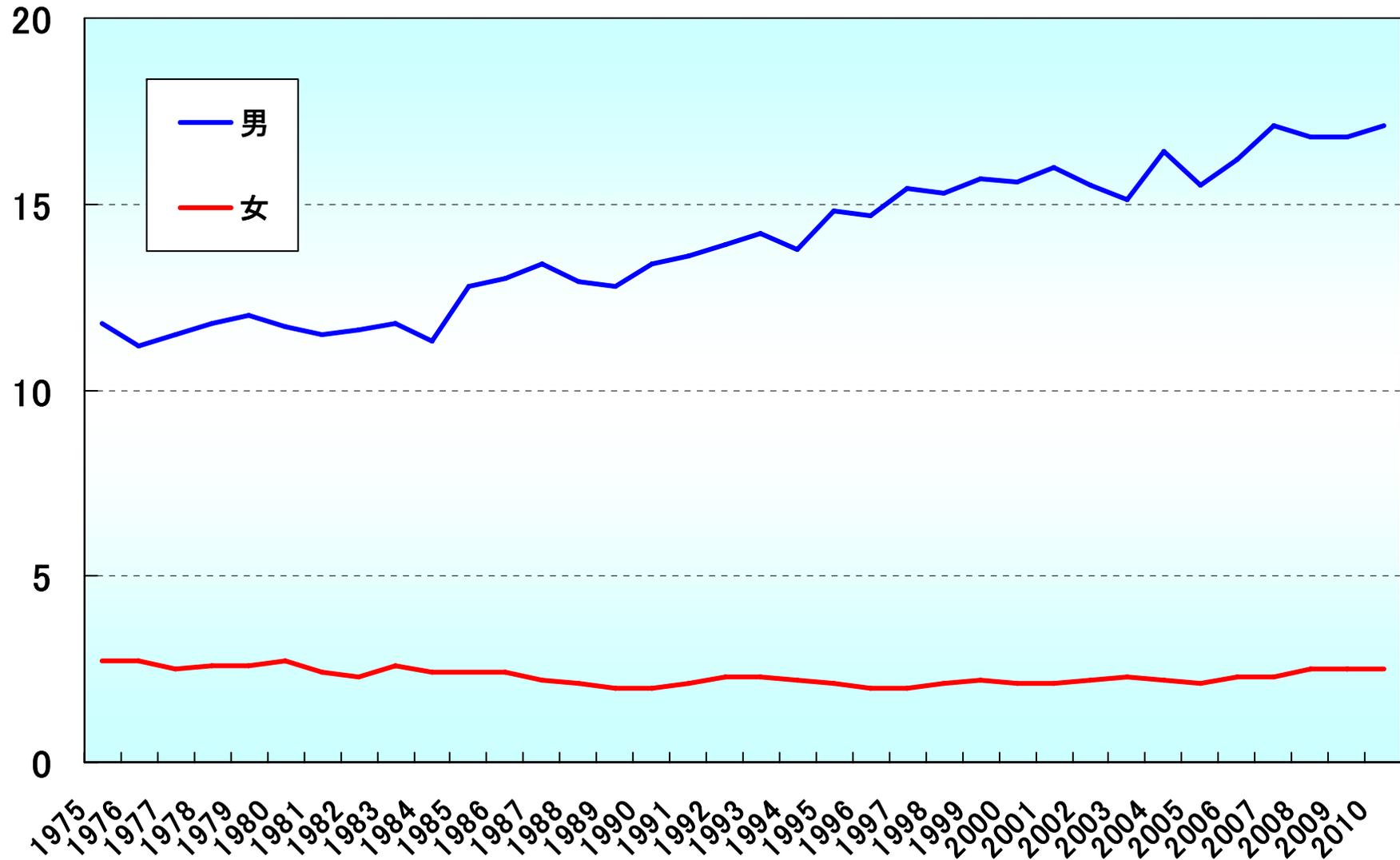
国立がんセンター院内がん登録中級者

国立がんセンター院内がん登録指導者

国立がんセンターがん登録実務者研修専門家パネル委員

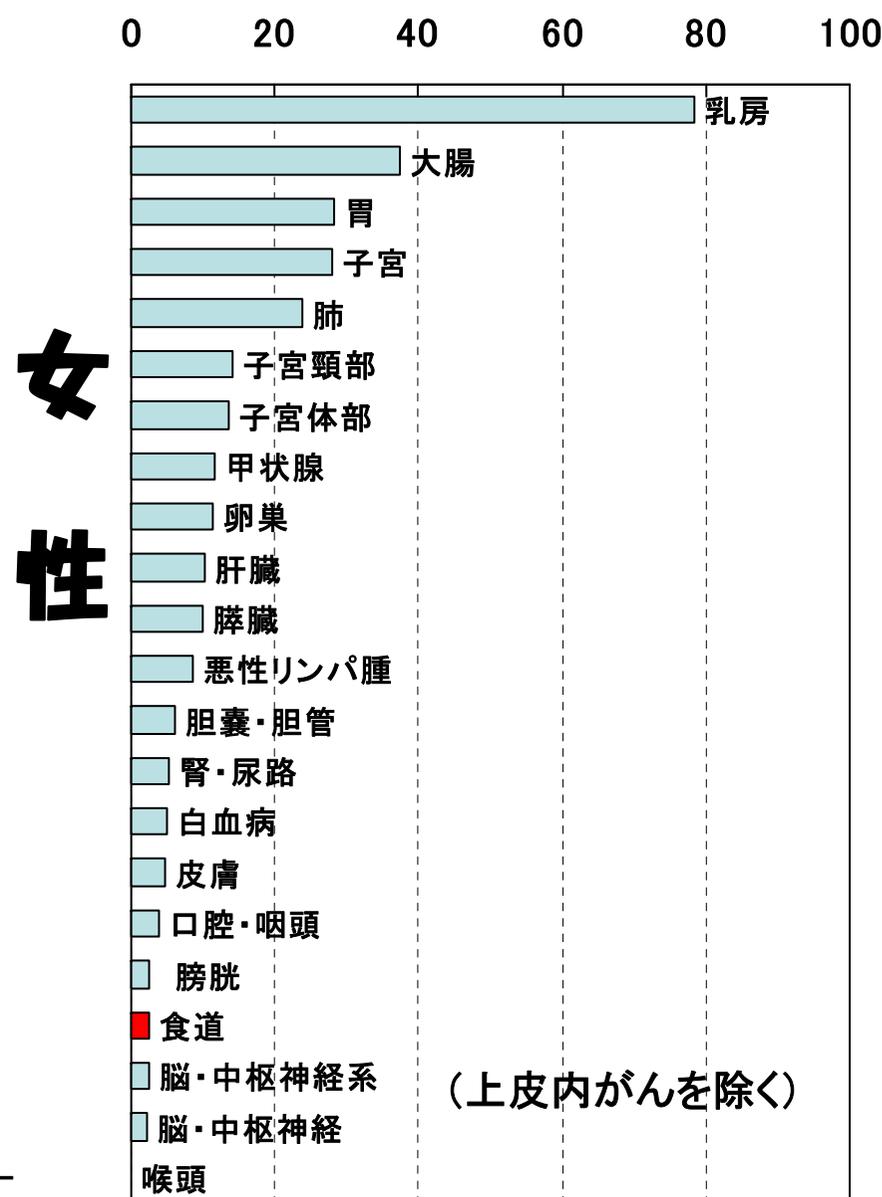
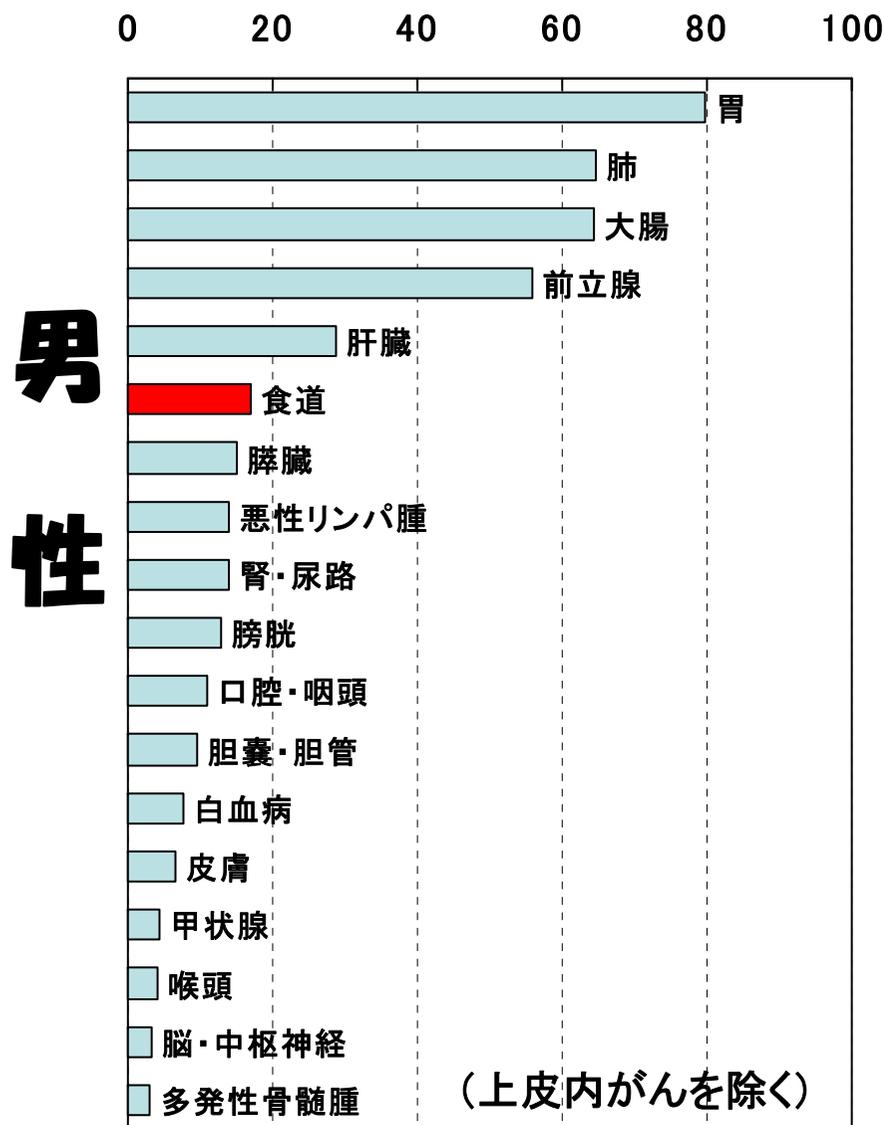
症例区分	生存率を算定する上で対象となる症例範囲を決定する区分 症例区分2: 診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例 症例区分3: 他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行がなされた症例。 上記を集計対象とし、算出することとする。
治療前ステージ	UICCの定めるステージング方法に基づき、何らかの治療の行われる以前につけられた病期を指す。 我国の通常臨床現場で使用されるがん取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。 癌腫が分類の対象となっていることから、組織診断名コードをもとに、肉腫やリンパ腫、カルチノイドを除いて集計している。
治療	登録対象となったがんに対する初回治療である。
初回治療	治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療は含まれないことに注意する必要がある。特に当初、経過観察が計画されて病状が悪化したために治療が行われた場合も初回治療はなしとなる。初回治療として計画されていても、他院で施行されたものは登録されず、登録施設で行われた治療のみが登録対象となる。症状緩和的な目的でおこなわれた手術や放射線治療も部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから、登録対象の治療に含まれる。

全国推定年齢調整罹患率(食道がん)
(対人口10万人)(昭和60年日本人モデル人口)



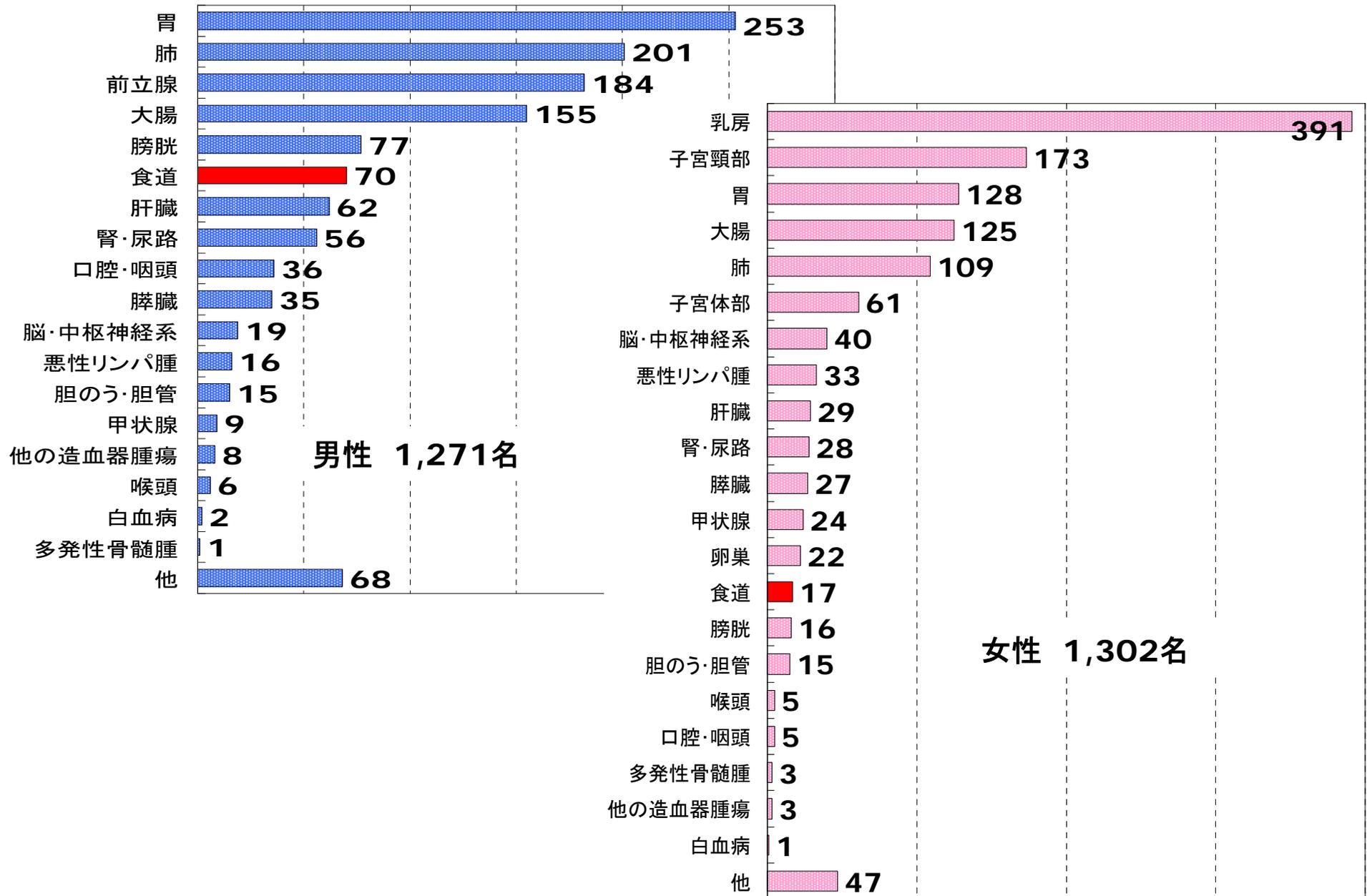
出典: 国立がん研究センターがん対策情報センター
Cancer incidence(1975-2010)

全国推定年齢調整罹患率(部位別・性別)2010年 (対人口10万人) 昭和60年日本人モデル人口



出典: 国立がん研究センターがん対策情報センター
Cancer incidence(1975-2010)

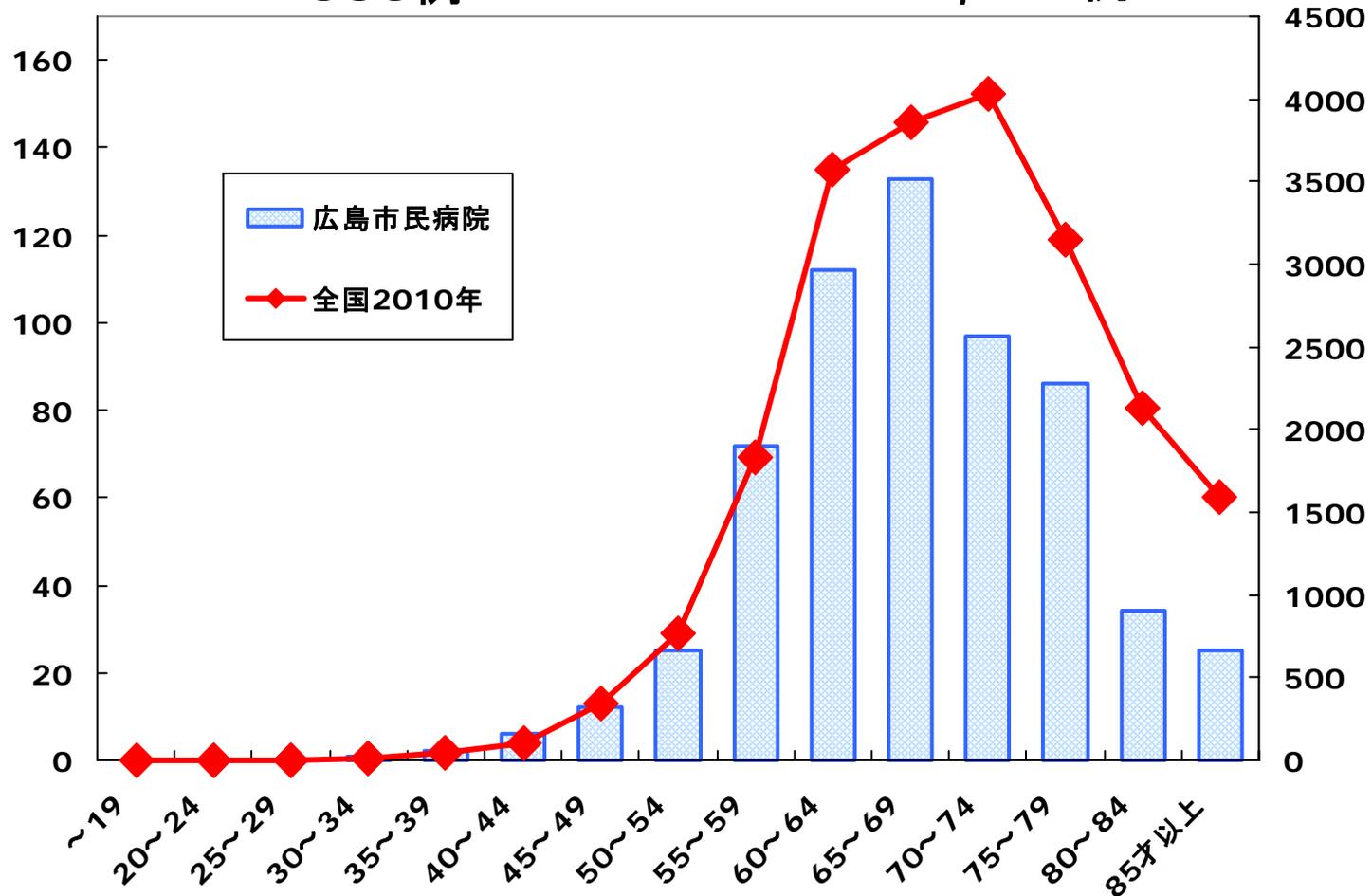
広島市民病院の院内がん登録 性別臓器別登録件数 2012年(初回治療施行例)



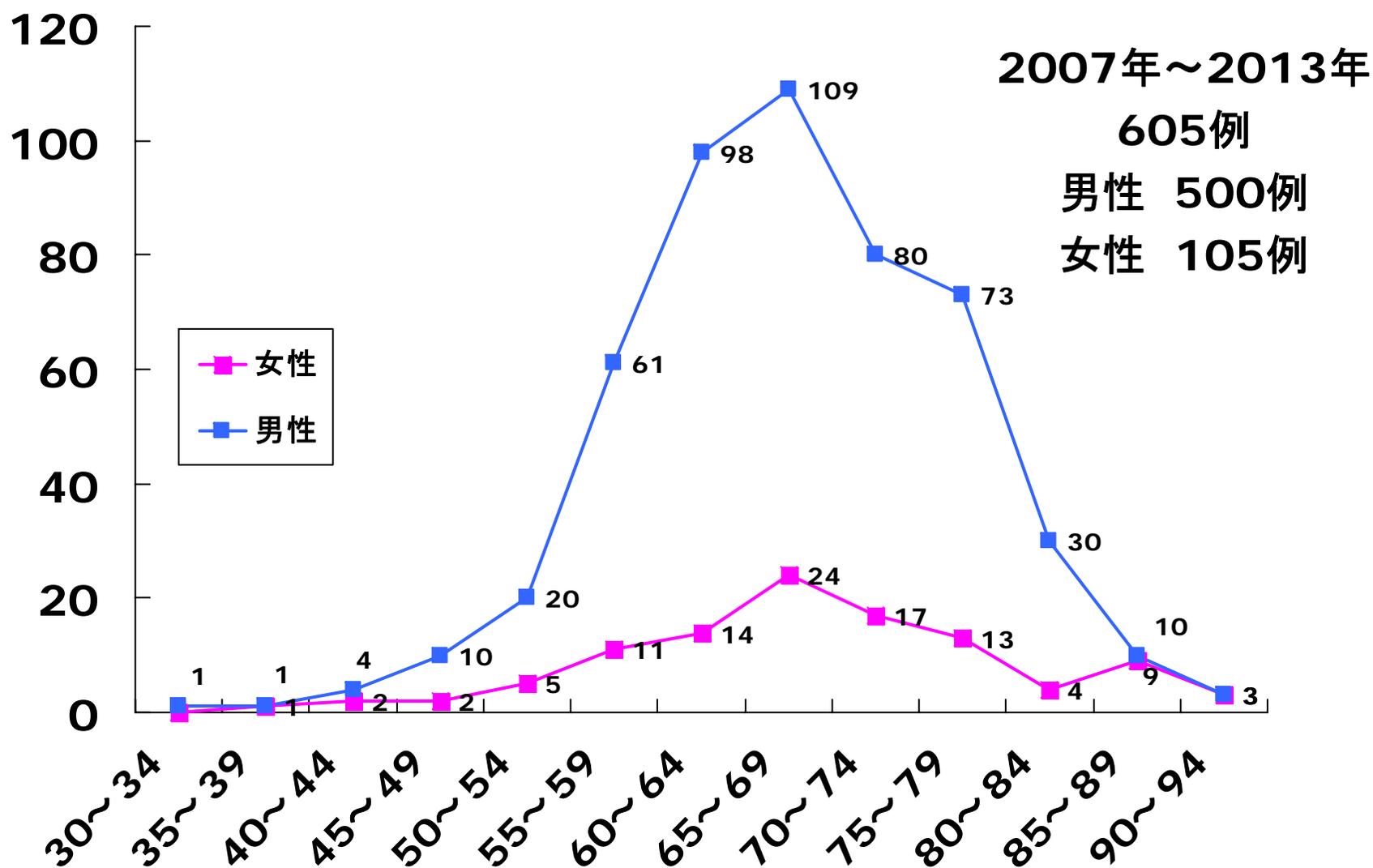
院内がん登録 食道癌 年齢階級別罹患数

広島市民病院
2007年～2013年
605例

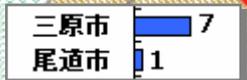
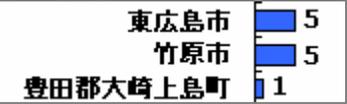
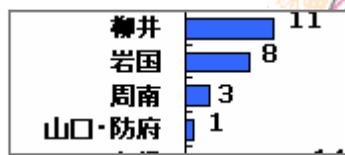
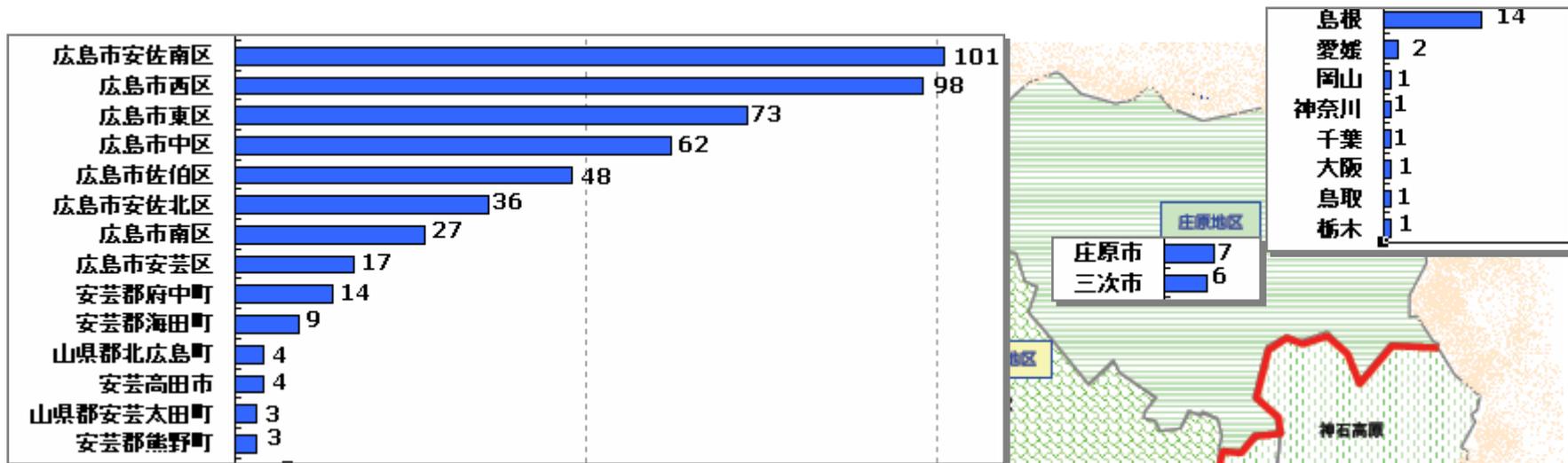
全国推定年齢階級別
調整罹患数2010年
21,427例



院内がん登録 食道癌 年齢階級別 性別 罹患数



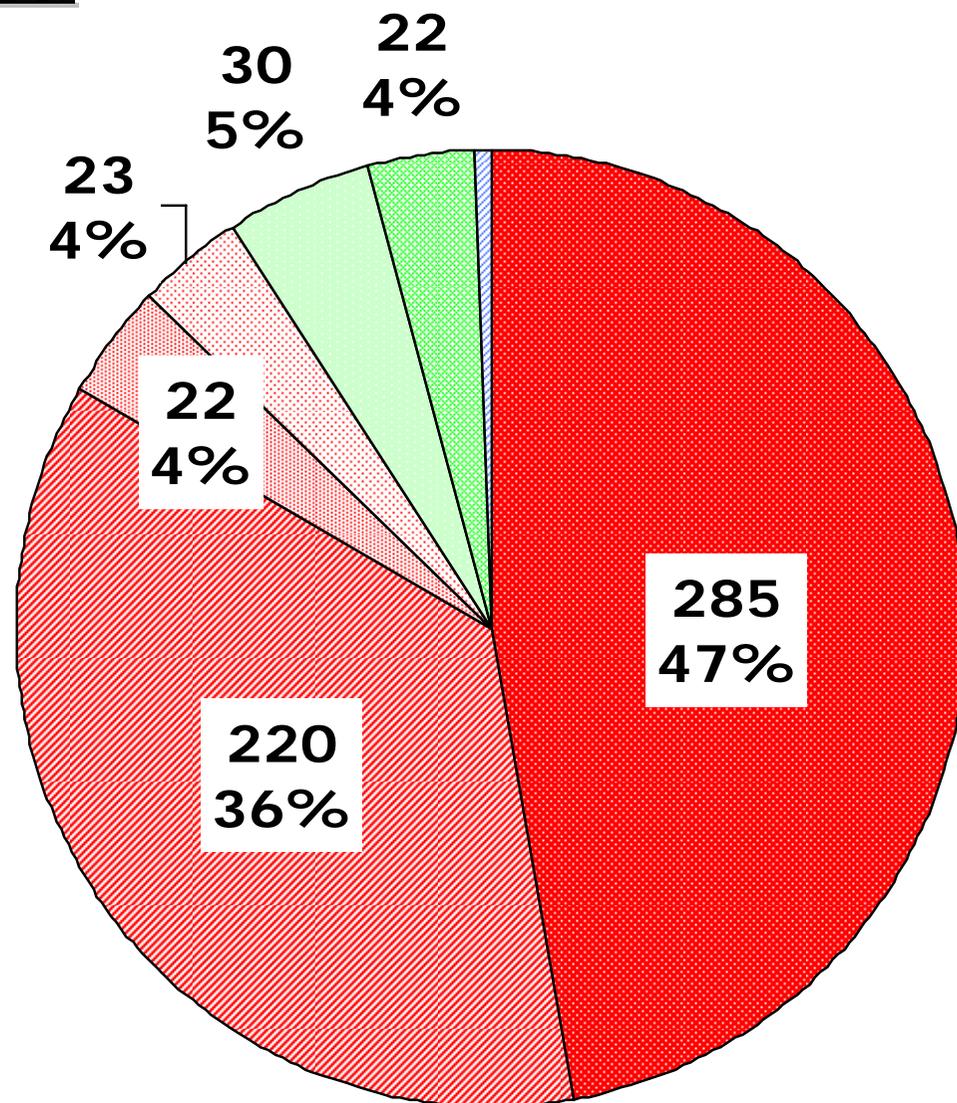
食道癌患者さんの居住地地域別（医療圏別）割合



院内がん登録 食道癌 症例区分別 登録数

2007年～2013年
605例

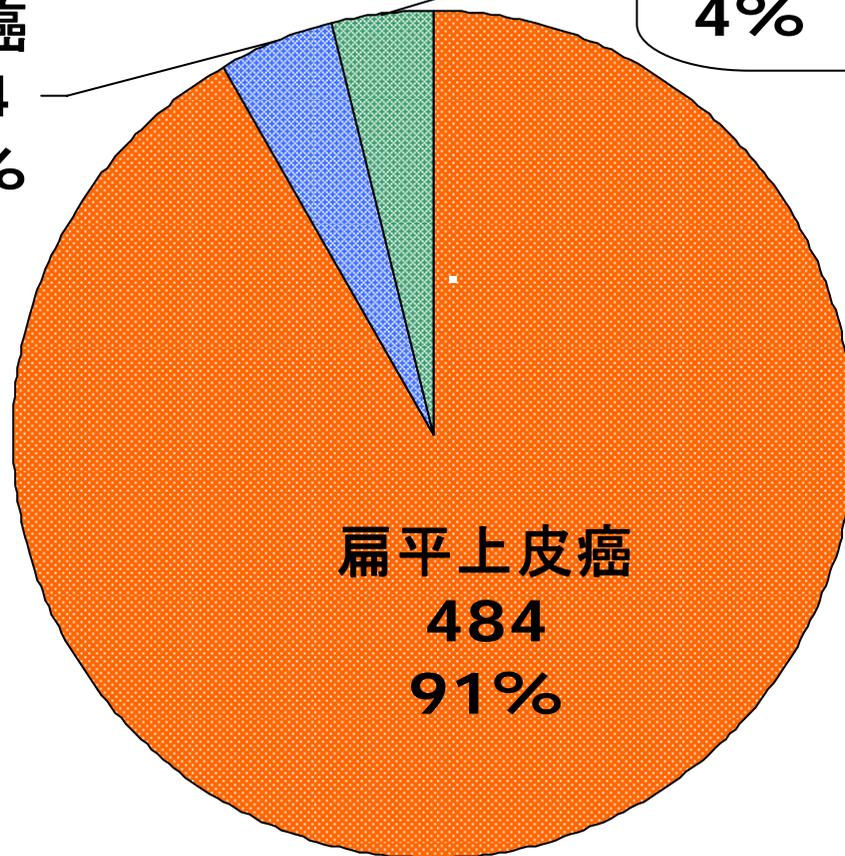
- 診断と初回治療施行
- ▨ 他施設診断、初回治療決定施行
- ▨ 初回治療開始後もしくは再発症例
- ▨ 自施設で経過観察
- 診断後、他院へ紹介
- ▨ セカンドオピニオン
- ▨ 来院中断



院内がん登録 食道癌組織型別 症例数

2007年～2013年
初回治療施行症 528例

腺癌
24
5%

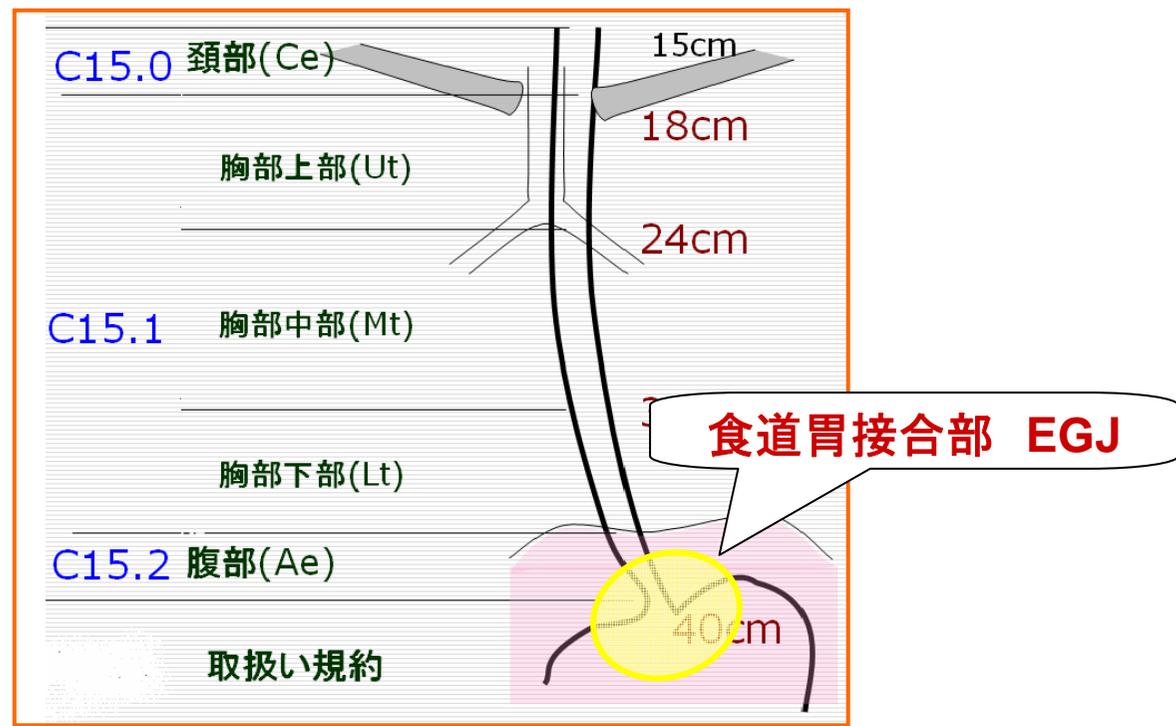
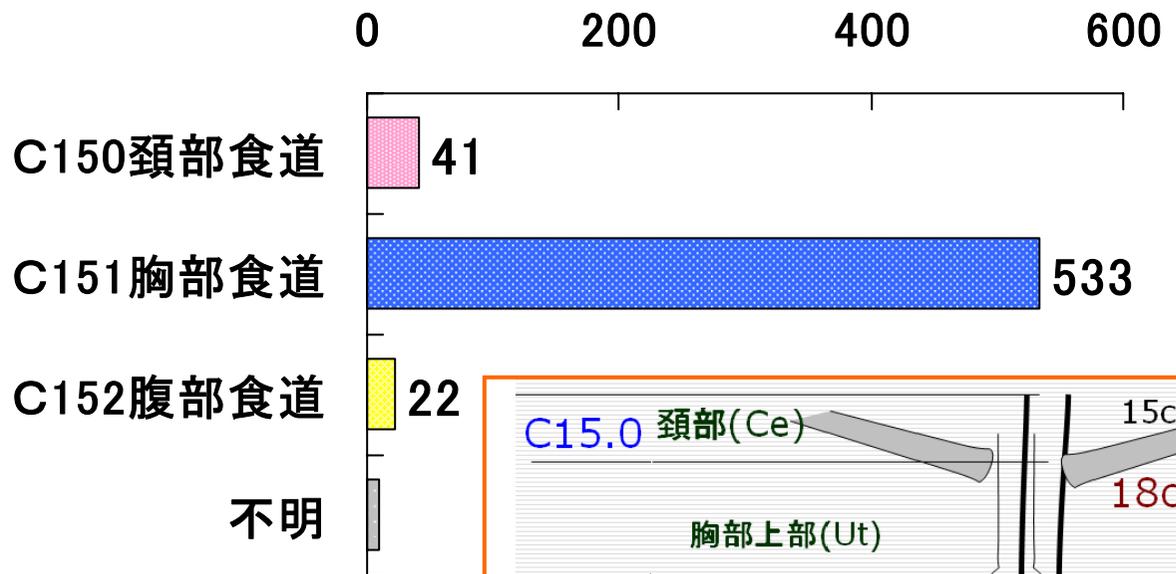


その他
20
4%

悪性黒色腫
小細胞癌
肉腫 など

院内がん登録 食道癌

発生要部位別 症例数 (UICC 6th・7th)



食道癌患者さんの 来院経路 ・ 発見経緯

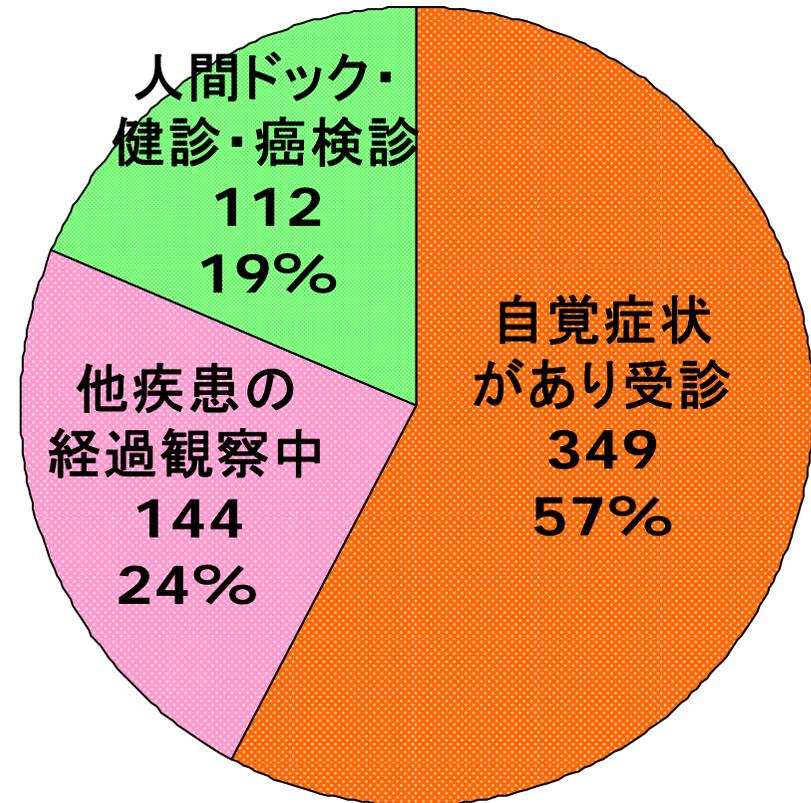
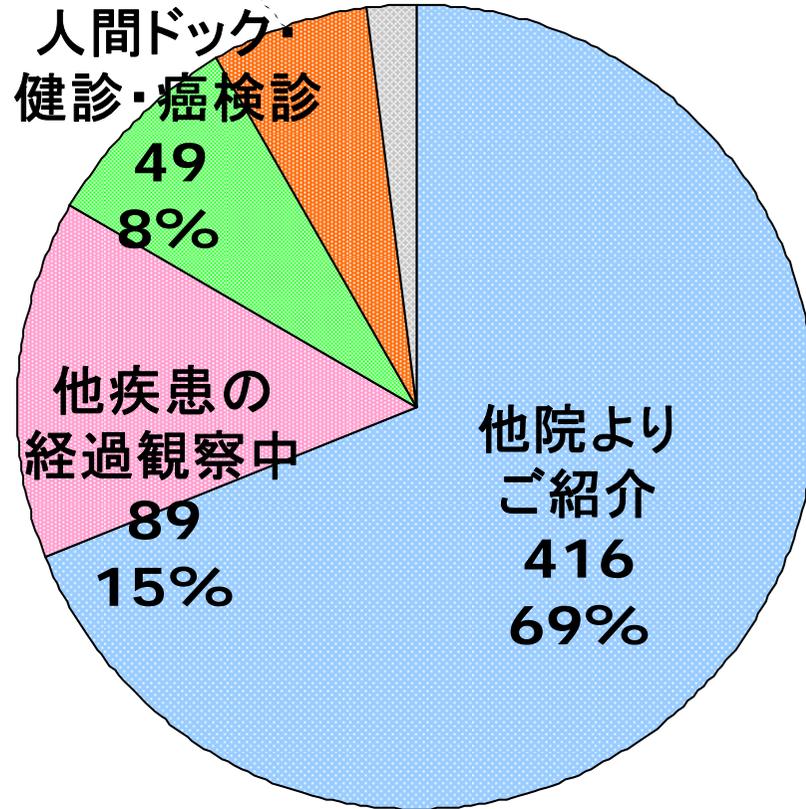
2007年～2013年

605例

自覚症状
あり来院

39

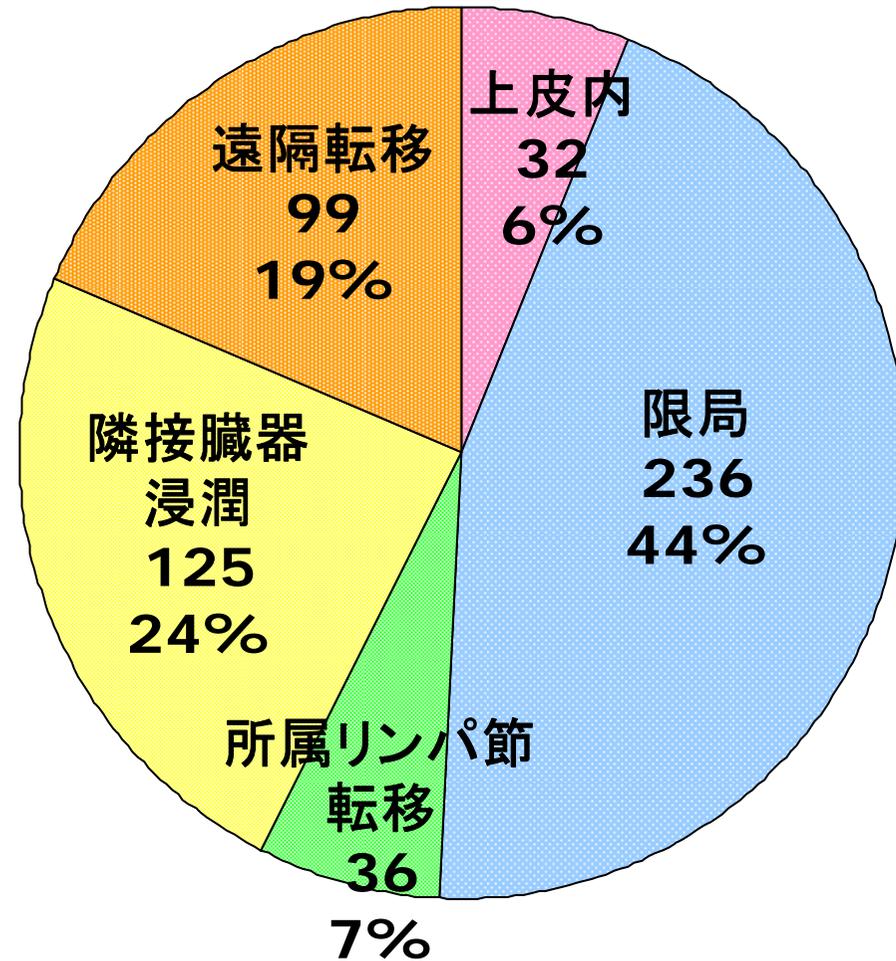
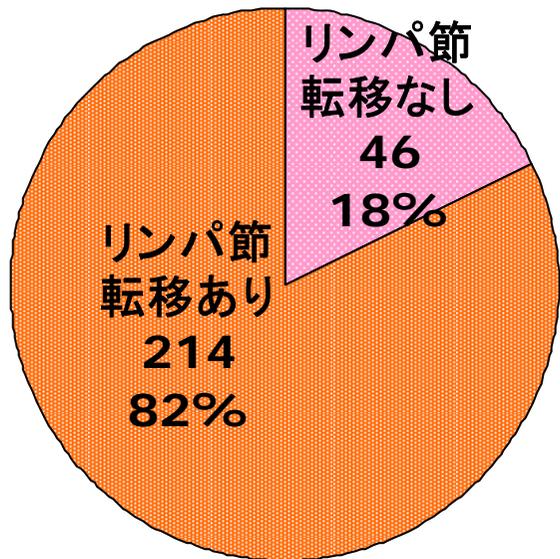
6%



院内がん登録 食道癌 初回治療実施症例 進展度(臨床進行度) 別 症例数

2007年～2013年
528 例

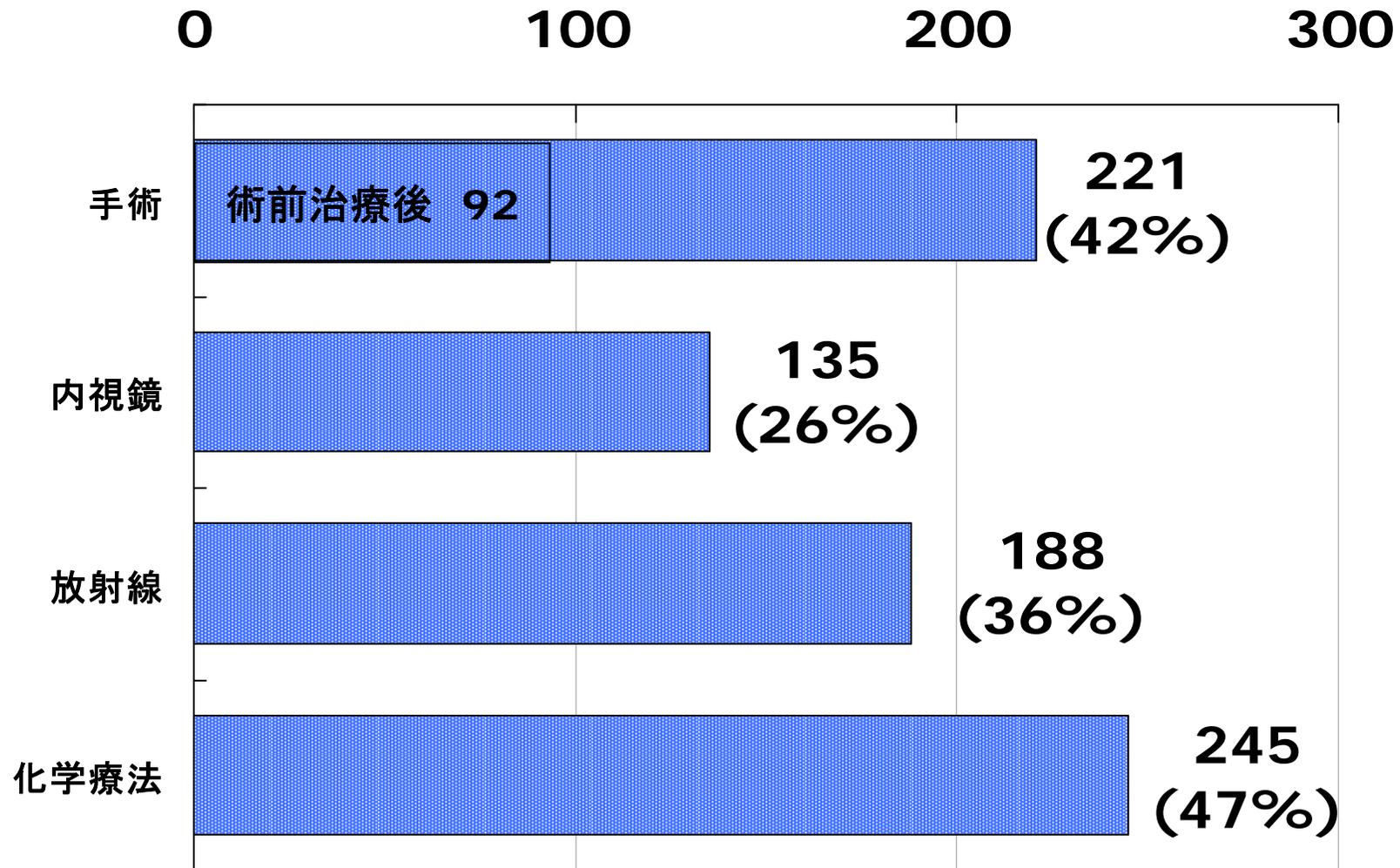
(上皮内・限局を除く)
所属リンパ節転移有無の割合



- 上皮内
- 限局
- 所属リンパ節転移
- 隣接臓器浸潤
- 遠隔転移

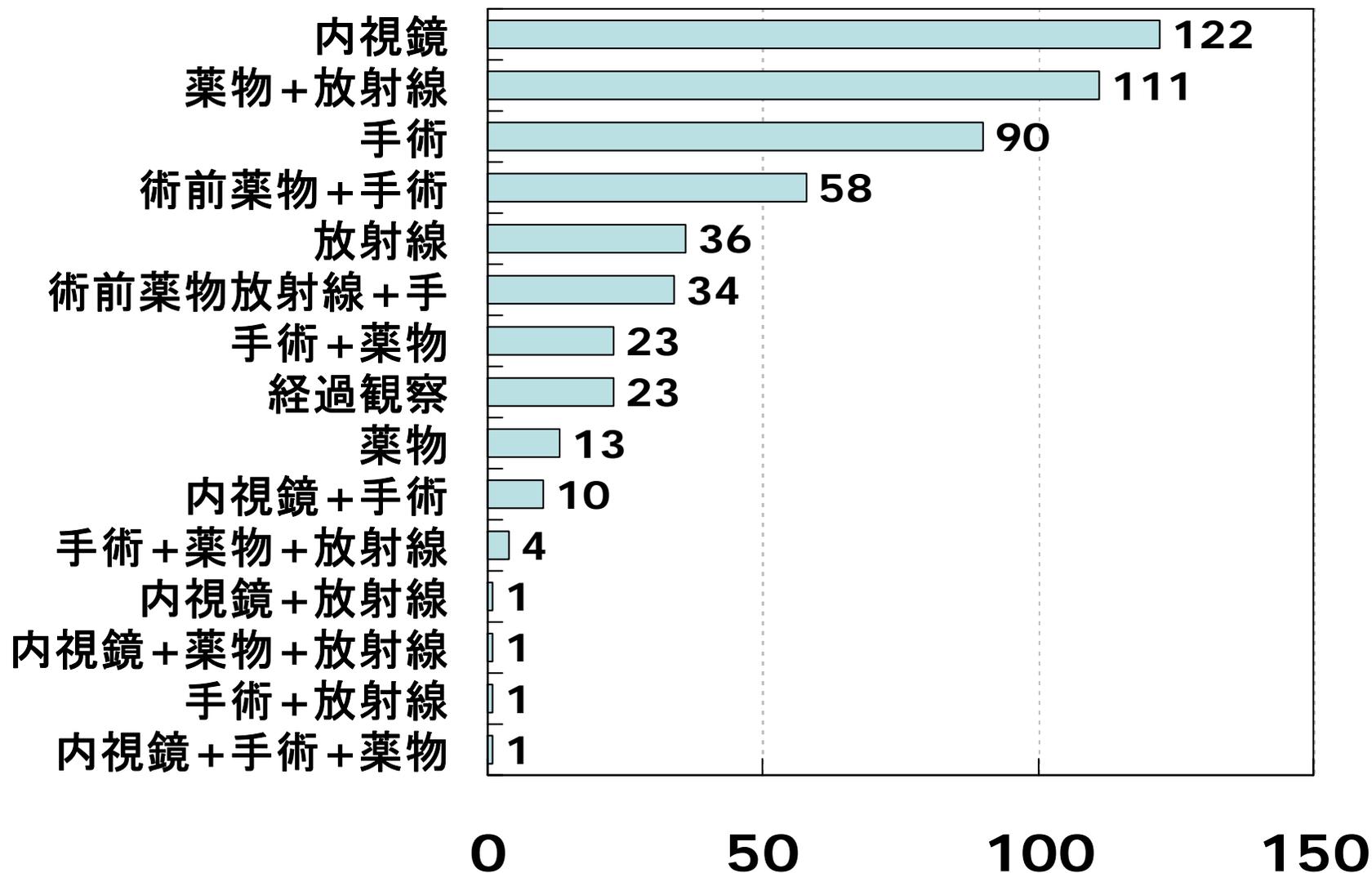
食道癌 初回治療法別 症例数

2007年～2013年 528例



食道癌 初回治療法別 症例数

2007年～2013年 528例



施設実名入りの情報公開

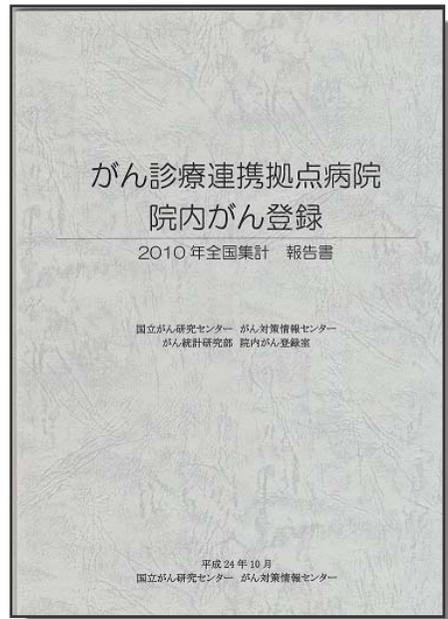
2014年9月

国立がん研究センターがん対策情報センターから

院内がん登録「施設別集計結果」が一部公開される

「がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2012年全国集計報告」

2014年現在 397施設



調査の背景と目的

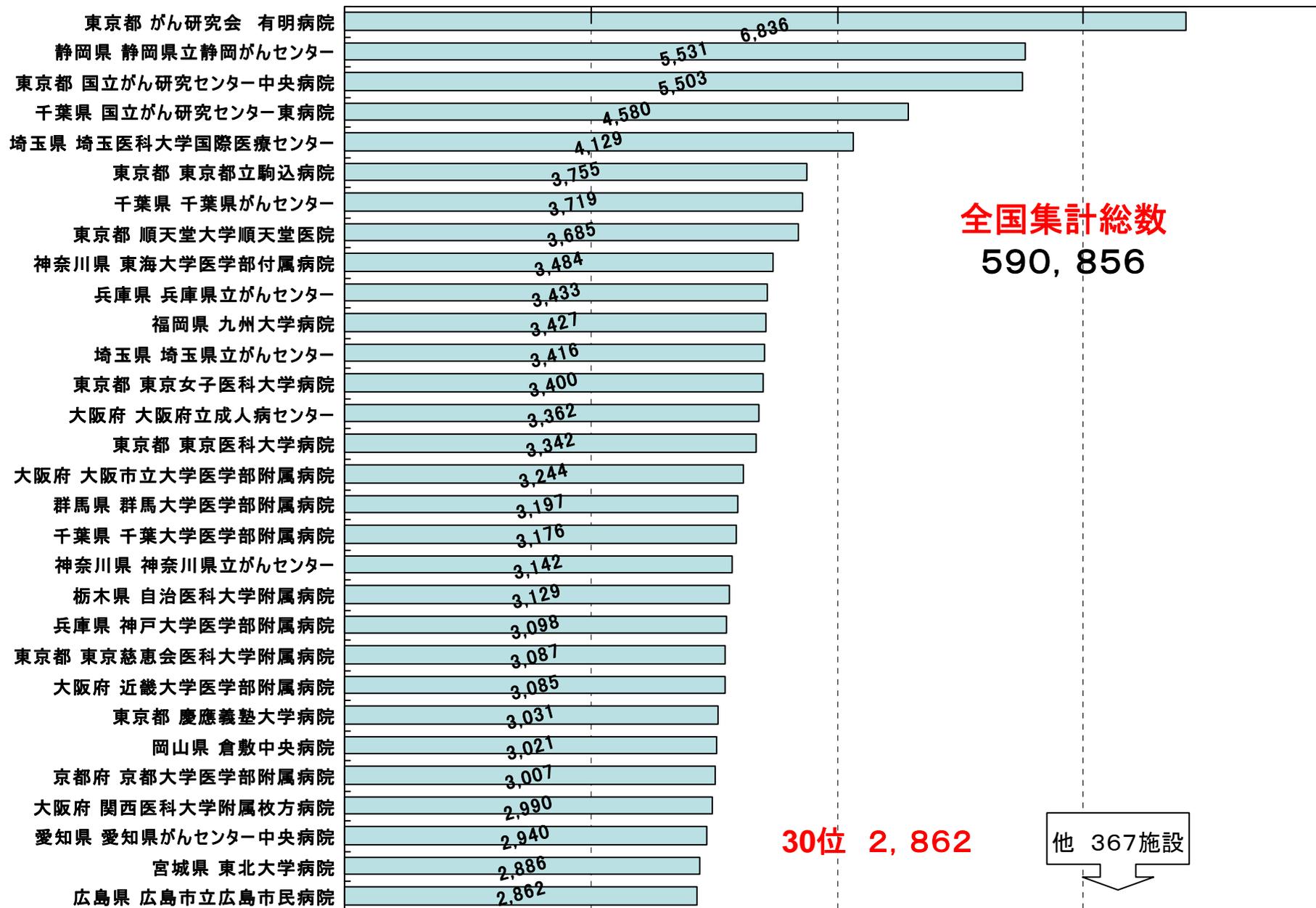
平成19年4月よりがん対策基本法が施行され、その定める、がん診療の均てん化を推進するために、がん診療連携拠点病院が指定・拡充されてきた。

これらのがん診療連携拠点病院は都道府県および地域におけるがん診療の拠点となり、各種医療機関との有機的な連携を図る役割を持つ共に、院内がん登録の体制の整備を通じて施設の実態を把握し、さらに国レベルでのがん対策の進捗を評価するために、そのデータを国立がんセンターがん対策情報センターに提出することが指定要件として定められている。

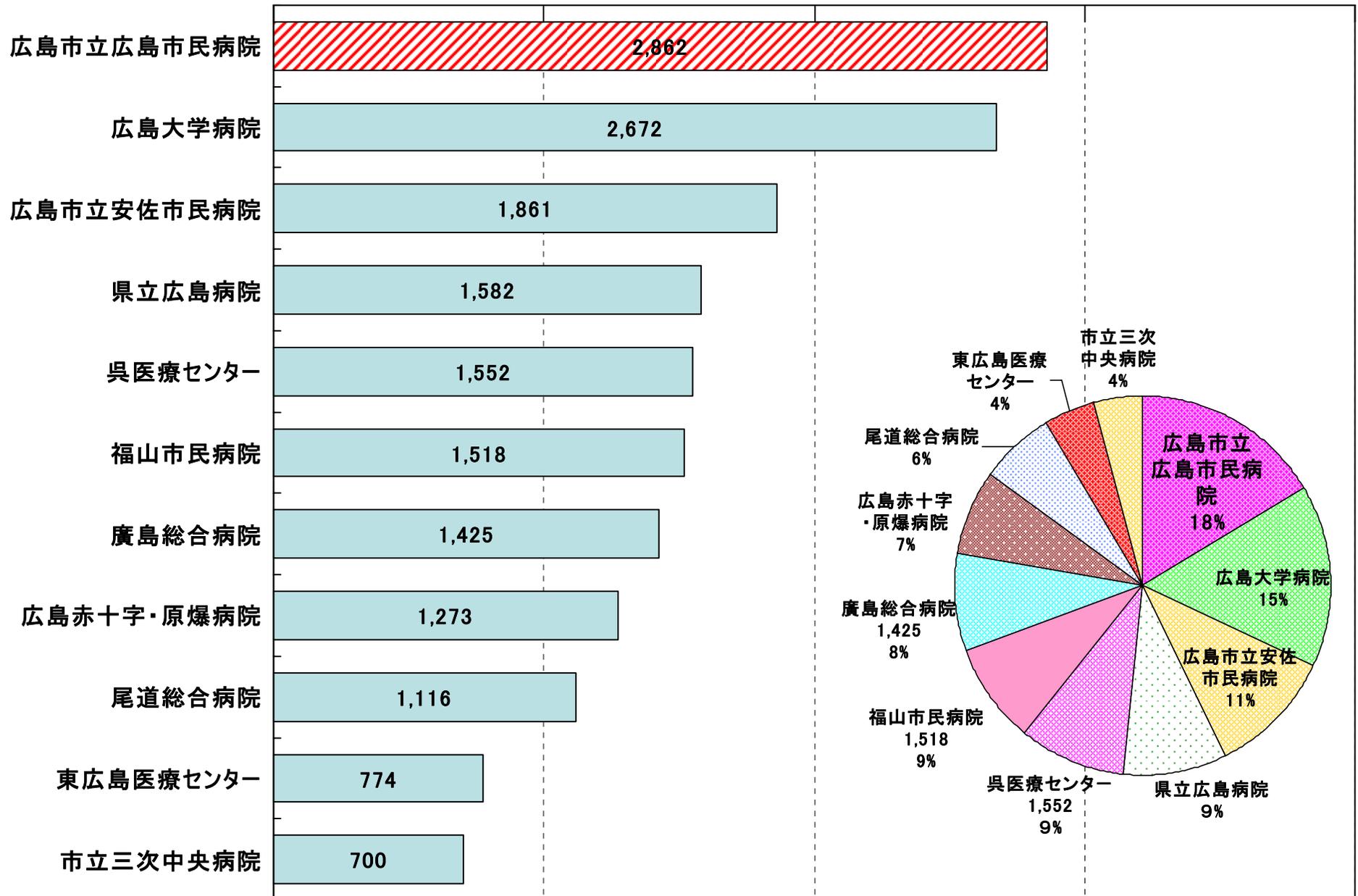
本調査の目的は、全国のがん診療連携拠点病院において実施されている院内がん登録のデータを集計することにより、以下の基礎資料を提供することにある。

- ①各がん種、進行度、その治療の分布を把握し、国や都道府県のがん対策に役立てる
- ②各施設が全国と比較した自施設のがん診療状況を把握し、がん診療の方向性等を検討する

全国がん診療連携拠点病院「院内がん登録」2012年集計結果(登録総数)397施設中上位30位 (セカンドオピニオン他を除く)

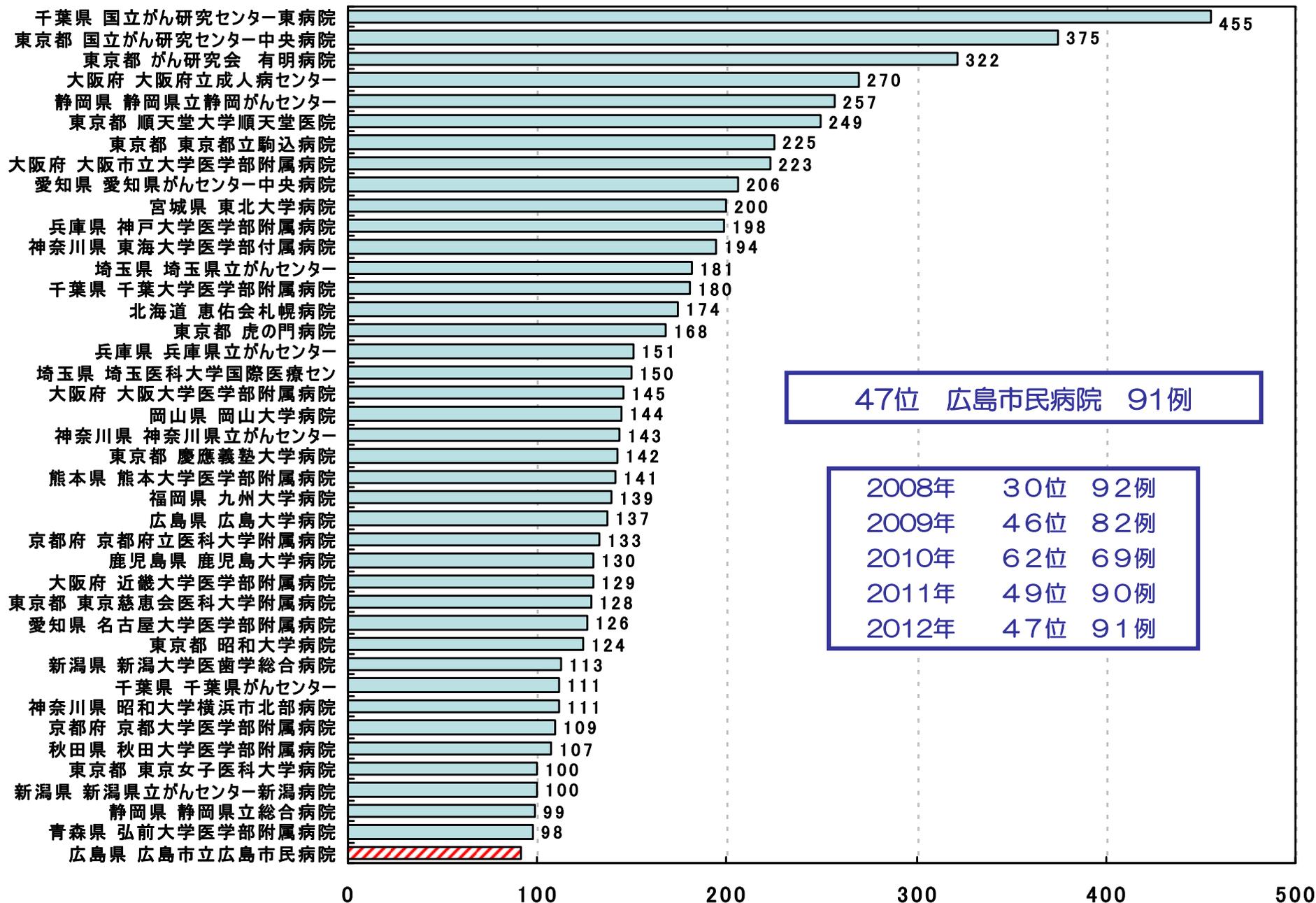


全国がん診療連携拠点病院「院内がん登録」2012年集計結果(登録総数)広島県内
 (セカンドオピニオン他を除く)



全国がん診療連携拠点病院「院内がん登録」2012年集計結果

(397医療機関別 **食道癌** 登録数 18610例) 上位40位+広島市民病院



広島県がん診療連携拠点病院「院内がん登録」2012年集計結果
 (11医療機関別 食道癌 登録数 453例)

